

## 特集「カブトムシの森 林床植生調査の報告」(14/4/20 実施)

カブトムシの森のA地区では、保全活動が林床植生に与える影響を調べるために、昨年度、約10年ぶりに林床植生調査を再開しました(詳細は2013年6月発行の森ものがたり106号に掲載しています)。10年前とはマンパワーなどの要因が変化しているため、効率よく効果的な植生調査を行うためには、どのような調査方法が良いのか、試行錯誤をしながらの実施でした。その結果、昨年度の方法では調査区が狭く、ごく狭い範囲しか調べられなかったため、今回は調査方法を簡略化する一方で調査区を広くしてみました。また、昨年度は4月初旬に実施しましたが、時期が早すぎて、花が十分に見られなかったため、時期を若干遅らせて実施しました。詳細は以下の通りです。

### <方法>

1. 昨年度と同じ場所に、10m×10mの調査区を設定しました。(昨年度に設置した杭を目印として設定しました。)また、富永さんがかつて行っていた調査区(草刈を行わず、昆虫などを観察する調査区)の撤去も行いました。
2. 昨年度は2m×2mの区画を4つ設定しましたが、今年度は10m×10mの調査区を4つに分け、5m×5mの区画を4つ設定しました。
3. 5m×5mの区画それぞれについて、蕾・

花・果実が見られる種を記録し、それぞれの植物について被度の計測を行いました。(昨年度は、2m×2mの区画で出現種をすべて記録していましたが、今年度は、蕾・花・果実が見られる種のみ記録しました。)

### <結果と今後の課題>

次のページには調査表を示しています。10m×10mの調査区全体で比較すると、昨年度は、蕾・花・果実が見られたのは10種でしたが、今年度は16種となっていました。すべての種において確実に種類が同定できた訳ではありませんが、昨年度、蕾・花・果実が見られた種は、概ね今年度でも蕾・花・果実が見られました。今年度新たに蕾・花・果実が見られた種には、ミゾイチゴツナギやツチアケビなどがありました。おそらく、昨年度よりも時期をずらしたために、見られるようになったのではないかと考えられます。

今年度は、10月に勉強会が予定されています。それに向けて、7月にも植生調査を行う予定にしておりましたが、大雨で中止になってしまいました。今回の調査方法は、比較的、短い時間で実施できるので、実施回数を年3回程度に増やし、来年度以降も続けて行きたいと思っています。また、勉強会を通して、調査方法の改善方法があるかどうか、検討したいと思っています。(篠原、柴戸)



調査区(左)と調査風景(右)の写真